

(様式2)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 28 年 3 月 4 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470205323		
法人名	社会福祉法人三篠会		
事業所名	グループホーム鈴が峰		
所在地	〒731-5122 住所：広島県広島市佐伯区五日市町皆賀104番地27 電話：082-943-8888		
自己評価作成日	平成27年11月23日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	(社福) 広島県社会福祉協議会
所在地	広島県広島市南区比治山本町12-2
訪問調査日	平成27年12月10日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

- ・ 利用者個々に合わせたお誕生日会及び個別外出
- ・ 毎月のご家族への手紙送付(写真添付)、定期的な事業所の広報誌送付
- ・ 併設施設との効果的な連携
- ・ 利用者の体調を考慮しながら、施設内の散歩を定期的に行なう

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホーム鈴が峰（以下、ホーム）は、社会福祉法人三篠会を母体とする事業所です。法人では、障害福祉、高齢者福祉において広く地域に貢献されています。
ホーム職員は、入居者が意思を伝えやすい雰囲気づくりを大切にし、何でも言える関係を築きながら、一人ひとりの思いを汲み取った支援に努めておられます。入居者の希望に合わせて、宮島の厳島神社へ参拝したり、歌が好きな人はカラオケボックスに出かけたり、本人の誕生日に合わせてその人がやりたいことの実現に取り組まれています。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営(Aユニットもみじ)					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所独自の理念を掲げ、朝礼時に職員全体で唱和し共有することで、理念の実践に向け日々努めている。	ホーム開設時に、独自の理念を作成されています。ユニットごとで目標を掲げ、日々の支援に照らし合わせながら職員全体で共有されています。理念の浸透のため、見直しを含めた話し合いが進められています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域との付き合いという点では希薄なところもあるが、毎月定期的に行う民生委員との料理会や作品作りの行事及びボランティアの受け入れ等を通して交流を行っている。	地域の理解を得るため、時間をかけながら少しずつ協力関係を築く努力をされてきました。地元で行われる亥の子祭りの準備場所の提供や、訪問者や地域住民も気軽に立ち寄れるように、職員用送迎バスを開放するなどの工夫をされています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	「認知症高齢者支援体制づくり部会」「佐伯区世界アルツハイマーデー記念講演会」「認知症サポーター養成講座」「家族介護教室」等に職員を派遣し、地域貢献に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に1回実施し、行事報告・利用者個々の近況報告・事故報告及び防止策についての意見交換等を行い、サービスの向上に努めている。	会議では、映像を通して入居者の日々の様子を伝えるなどの工夫をされています。介護保険に関する情報提供、質疑応答を行い、運営に役立てられています。また、消防署員を交えて、地域防災について事例を用いた話し合いも行われています。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	広島市五日市地域包括支援センター職員の協力により、運営推進会議に参加して頂くことで、情報交換や相談を行い、行政との連携に努めている。	運営推進会議の報告を都度行われています。また、電話連絡や情報収集も忌憚なく行われ、日頃から協力関係を築いておられます。	

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	リーダー会議やスタッフミーティングを通じて、職員一人ひとりが身体拘束ゼロの意識を共有している。また、内部研修へも積極的に参加し理解を深めている。現在は、これまでのような体動はほとんど無く、日中は3点柵で床にマットを敷き対応している。夜間も日中同様に着床時より3点柵とマットで対応出来ているので、拘束解除に向かっていく。	身体拘束のないケアをめざし、研修を通して意識徹底に努めておられます。職員は、お互いの支援方法を確認し合い、自分たちのケアについて日頃から振り返りをされています。やむを得ない状況での拘束については、解除に向けて職員全員で支援方法を話し合い、安全に配慮しつつ自由な暮らしとなるよう取り組まれています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	リーダー会議やスタッフミーティングを通じて、職員一人ひとりが高齢者虐待防止の意識を共有している。また、内部研修へも積極的に参加し、更なる理解を深めていきたい。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護については学ぶ機会をそれほど持っていないが、施設内研修、外部研修を通じて、機会の確保に努めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約前の事前面接及び契約時は、十分な説明を行いご理解をいただいている。また、解約においても十分な説明を行いご理解をいただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	年1回法人全体の取り組みで顧客満足度調査を行い、貴重な意見は掲示してリーダー会議やスタッフミーティングを通じ施設運営に反映させている。また、運営推進会議においても利用者、ご家族より貴重な意見をいただき運営に反映させている。	職員は、家族とのコミュニケーションを大切にし、直接相談や意見が言いやすい環境づくりに取り組まれています。重度化を想定した相談が多く、家族の不安や気になることは丁寧に説明されています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月1回、事業所のスタッフミーティング及び施設全体のリーダー会議を開催し、職員との意見交換を行っている。	管理者は、日頃から職員の意見に耳を傾け、率直な意見やアイデアなどを運営に活かすよう努めておられます。計画の見直し期間の変更や訪問者に職員用送迎バスを利用してもらう提案は、職員の意見をもとに実現されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員は上期、下期に目標の設定とその評価を行い、必ず上司との面談を行っている。常にモチベーションを高く持つことができるよう、就業環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内での研修や外部研修、内部研修の受講を積極的に促すとともに、資格の取得についてのサポートについても取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他事業所との交流はほとんどないが、法人内での新任研修、2年目研修、中堅研修を行い、他事業所と情報交換や交流を行っている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所前の面接時に、ご本人からの要望や不安等を傾聴させていただき、また入所後の様々な訴えや要望に対し、傾聴することを心がけ、利用者個々に合わせた対応を行っている。		

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス利用前、見学後の面接にて、家族の不安や要望を傾聴し、利用開始後は近況報告を行っている。意見や要望については、誠意ある対応を努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	当事業所のみならず、併設施設の情報も併せて提供することで、本人及びご家族にとってより良いサービスの選択をしていただけるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員は、利用者と同一テーブルで昼食を摂る等、共同生活を通じ友好を深め、相互に信頼し合える関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族への報告、連絡、相談を徹底し、行事等への参加も積極的に促している。ご家族の協力のもと、可能であれば外出をしていただき、利用者を共に支えていく関係作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	居室にテーブルや椅子等を自由に持ち込んでいただき、家族や友人が気軽に訪ねて来れるよう工夫している。個別外出は、馴染みの場所へ外出することは少ないが、本人及びご家族の希望に沿えるような場所へ外出できるよう努めている。	友人の訪問があります。また、家族の協力のもと、住み慣れた家に帰宅する人もいます。誕生日には、カラオケや神社参拝など、馴染みのある場所などに出かけられます。入居者がこれまで大切にしてきた場所や関係が途切れないよう、家族の協力も得ながら支援されています。	

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	席替え等を工夫しながら、利用者同士の関係を考慮した対応に努めている。他の利用者との折り合いがつかない場合や独りを好む方については、個別的な関わりを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後についても、併施設設へ入所された利用者は、必要に応じてその都度、本人及びご家族との相談に応じている。その他、支援が必要な場合は相談に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	スタッフミーティングにて、全職員で利用者及びご家族の意向の確認、共有を行い、本人に最適と思われるケアの実施に努めている。	職員は、入居者の声に耳を傾け、時には仕草や様子から思いや意向の把握に努めておられます。得た情報を職員全体で共有し、その人の思いや意向に添った支援の統一に取り組まれています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	サービス利用前の面接時において、本人及びご家族よりこれまでの生活歴や現在の生活環境について聞き取りを行い、詳細な把握に努めている。昔から大切にされていた物品等も持参されている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	少しの体調の変化でも見逃すことがないよう、日々の観察、定時のバイタルチェックを行い、コミュニケーションも密に図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご家族、主治医、看護師、介護職員等の他職種での意見も取り入れた介護計画を立案している。	6か月ごとに短期目標、1年ごとに長期目標の計画を見直しされています。また、状況に応じて都度見直しを行い、入居者一人ひとりの現状に即した計画作成に取り組まれています。担当職員を中心に、医師や看護師、家族の意見をもとに、職員全体で話し合いのうえ計画作成されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人のケース記録、スタッフ間の連絡帳、業務日誌を通じ、全職員での情報の共有を図り、必要であれば介護計画を見直し、サービス提供に取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	当該事業所のみならず、併設施設の機能も十分に活用することで、利用者及びご家族のニーズに応えられるよう、柔軟な対応を心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	利用者一人ひとりを支えている地域資源を把握できているとは言えないが、町内会のご協力により、仮もみ行事等で施設に来ていただくことで交流を図るよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	利用開始前よりご家族との話し合いを行い、希望があれば継続してかかりつけ医と関係を保ち、適切な医療が受けられるよう支援している。	これまでのかかりつけ医で受診する入居者がおられます。協力医療機関とは、緊急時に適切な医療が受けられるよう体制を整えておられます。また、併設の施設では、定期的に歯科医や心療内科の医師による往診があり、状況に応じてホームの入居者も受診されています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	事業所内または併設施設内の看護師と連携を図り、体調不良者については相談し、必要であれば受診が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、サマリー等を用いることで利用者の詳細な情報を医療機関へ伝えていく。入院中は、事業所関係者が利用者の様子を定期的に伺い、退院後の受入れが円滑に行うことができるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	利用開始前にグループホームの機能としての限界について説明を行っている。利用後、重度化や終末期に向けた動きが必要な場合には、主治医を交えて今後の対応方法についてご家族と話し合いの場を持ち、生活継続を希望された場合は、出来る限りのサービス提供に努めている。	重度化の兆候が見られた時点で、家族と話し合いを行い、再度、ホームが可能な支援について説明されています。また、家族の希望を聞き取り、ホームとして出来る限りの支援に取り組まれています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	施設内研修等を通じ、事故発生時や急変時の対応について知識を深めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	併設施設と合同で年2回の避難訓練等を通じ、災害対策の意識づけを行っている。地域との協力体制は薄いので、地域の防災訓練の参加や、近隣の方々に施設の避難訓練に参加していただけるよう努めている。	年2回、消防署立ち会いのもと訓練を実施されています。また、訓練後に勉強会を行い、災害時における知識やアドバイスを得ておられます。災害時には、ホームとして地域にできることを検討されています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	自尊心を傷つけることがないよう配慮するとともに、個人情報の保護にも留意している。禁句チェックシートについても活用している。	職員は、入居者一人ひとりの言動や行動に気を配り、その人に合わせた環境づくりに努めておられます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	可能な限り自己決定していただくよう、その人その人に合わせた理解しやすい説明や声かけを行うことで、日々のコミュニケーションを密に図っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者一人ひとりのペースに合わせたケアを大切にし、危険が及ばない範囲で自由に生活していただけるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	毎日の更衣について、意思疎通が可能な方には全てを一任している。その他、本人やご家族の希望があれば可能な限り、希望に沿った身だしなみやおしゃれができるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	調理で食事基準集を作成し、嗜好調査を行っている。食事の準備や片付けは、無理のない範囲で利用者とともに厨房へ取りに行ったり、盛り付け、配膳、片付けを行っている。	重度化に伴い、食事介助が必要な入居者が増えています。中には、昼食介助のため、毎日訪問する家族もおられます。ホームでは、口から食べることを大切にし、本人に無理強いをしないように気をつけながら支援されています。また、外食に出かけ、いつもと違う雰囲気です食事を楽しめるよう工夫されています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	毎日の食事・水分摂取量を記録し，利用者個々の状態の把握に努めている。また，施設の管理栄養士と連携をとり，栄養バランスのとれた食事を提供し，急な食事形態の変更にも柔軟に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	利用者個々の状態にもよるが，可能な限り，毎食後の口腔ケアを実施している。困難な場合は，協力歯科医院に対応をお願いし口腔内の清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェックシート等の活用等により，利用者個々の排泄パターンの把握に努めている。トイレでの排泄に向けた取り組みは，必要なケアを行うことで自立支援に努めている。	全居室にトイレが完備されています。共有のトイレは車いすでも介助可能な広さが確保されています。なるべくトイレで排泄ができるように誘導されていますが，本人の負担を考慮しながら個別に対応されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日の体操やレクリエーションを通じ，できるだけ体を動かすよう支援し，便秘解消の働きかけを行っている。便秘の原因や影響については主治医とも相談し取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	日中・夜間において，利用者からの希望や状態に合わせた入浴を実施している。当該事業所での入浴が困難な場合は，併設事業所の入浴設備を使用し，快適に入浴していただけるよう支援している。	個浴で，週2回の入浴を基本に，入居者の要望や習慣に合わせて支援されています。重度化した場合にも安全な入浴ができるよう，併設の事業所の特浴を使用し，安心してゆっくり気持ちよく入浴してもらえるよう取り組まれています。	

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	事業所内の空間スペースを有効に活用し、利用者同士、またはご家族で過ごすことができるような空間作りを実施し、好きな場所で安心して休息できるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	全職員が利用者の服用している薬について理解を深めている。誤薬、服薬忘れ等がないよう、服薬後は薬包の確認も併せて行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	利用者のこれまでの生活歴に即した趣味活動や特技を提供している。また、制作活動や簡単な作業、散歩等を行うことで気分転換の支援も行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	必ずしも全ての希望を実現することは難しいが、外出に関しては可能な限りの支援を行っている。誕生日には利用者、ご家族の希望を把握し、植物園や資料館、外食をすることで外出支援を行っている。	天気の良い日には、敷地内を散歩し、時には、お茶を飲みながら一休みし、外の風や季節感を楽しんでいます。誕生日には、その人の行きたい場所や食べたいもの、したいことを個別に叶える外出支援に取り組まれています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理が可能な利用者は非常に少ないため、施設がお金を立て替えて用意し、外出先での買い物等を通じて、社会的な交流が行える場を提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	可能な方には自由なやり取りができるよう支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者の作った作品を壁に飾るとともに、空間スペースの有効活用により、家庭的な雰囲気作りに努めている。	ホームのリビングからは、太田川や街並みが眺められます。開放感ある共有スペースで、テレビ観賞したり、手芸、習字、ボランティアの人と会話を楽しんだり、思い思いのスタイルで過ごされています。入居者が落ち着く場所でゆっくりと過ごせるよう、随所にソファを設置されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	面積の問題もあり、共用スペースで独りになれる空間の配置はできているとは言えない。気のあった利用者同士で過ごすことができるスペースについては、ユニット畳を使用した畳スペースやソファを配置している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用開始前から、馴染みのある使い慣れた物品を自由に持ち込んでいただき、利用者及びご家族が居心地よく過ごせるよう支援している。	居室には、ベッド、箆笥、洗面台、トイレが完備されています。入居時には、家族と一緒に持ち込む物を選び、居心地良く過ごせるよう工夫されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	利用者個々の理解力を把握し、その能力を最大限活かしていただけるよう努めている。		

V アウトカム項目 (Aユニットもみじ)			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
I 理念に基づく運営(Bユニットわかば)					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所独自の理念を掲げ、朝礼時に職員全体で唱和し共有することで、理念の実践に向け日々努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域との付き合いという点では希薄なところもあるが、毎月定期的に行う民生委員との料理会や作品作りの行事及びボランティアの受け入れ等を通して交流を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	「認知症高齢者支援体制づくり部会」「佐伯区世界アルツハイマーデー記念講演会」「認知症サポーター養成講座」「家族介護教室」等に職員を派遣し、地域貢献に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に1回実施し、行事報告・利用者個々の近況報告・事故報告及び防止策についての意見交換等を行い、サービスの向上に努めている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	広島市五日市地域包括支援センター職員の協力により、運営推進会議に参加して頂くことで、情報交換や相談を行い、行政との連携に努めている。		

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	リーダー会議やスタッフミーティングを通じ、職員一人ひとりが身体拘束ゼロの意識を共有している。また、内部研修へも積極的に参加し理解を深め、利用者の自立支援に努め身体拘束ゼロを維持している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	リーダー会議やスタッフミーティングを通じ、職員一人ひとりが高齢者虐待防止の意識を共有している。また、内部研修へも積極的に参加し、更なる理解を深めていきたい。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護については学ぶ機会をそれほど持っていないが、施設内研修、外部研修を通じて、機会の確保に努めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約前の事前面接及び契約時は、十分な説明を行いご理解をいただいている。また、解約においても十分な説明を行いご理解をいただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	年1回法人全体の取り組みで顧客満足度調査を行い、貴重な意見は掲示してリーダー会議やスタッフミーティングを通じ施設運営に反映させている。また、運営推進会議においても利用者、ご家族より貴重な意見をいただき運営に反映させている。		

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月1回、事業所のスタッフミーティング及び施設全体のリーダー会議を開催し、職員との意見交換を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員は上期、下期に目標の設定とその評価を行い、必ず上司との面談を行っている。常にモチベーションを高く持つことができるよう、就業環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内での研修や外部研修、内部研修の受講を積極的に促すとともに、資格の取得についてのサポートについても取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他事業所との交流はほとんどないが、法人内での新任研修、2年目研修、中堅研修を行い、他事業所と情報交換や交流を行っている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所前の面接時に、ご本人からの要望や不安等を傾聴させていただき、また入所後の様々な訴えや要望に対し、傾聴することを心がけ、利用者個々に合わせた対応を行っている。		

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス利用前、見学後の面接にて、家族の不安や要望を傾聴し、利用開始後は近況報告を行っている。意見や要望については、誠意ある対応を努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	当事業所のみならず、併設施設の情報も併せて提供することで、本人及びご家族にとってより良いサービスの選択をしていただけよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員は、利用者と同一テーブルで昼食を摂る等、共同生活を通じ友好を深め、相互に信頼し合える関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族への報告、連絡、相談を徹底し、行事等への参加も積極的に促している。ご家族の協力のもと、可能であれば外出をしていただき、利用者を共に支えていく関係作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	居室にテーブルや椅子等を自由に持ち込んでいただき、家族や友人が気軽に訪ねて来れるよう工夫している。個別外出は、馴染みの場所へ外出することは少ないが、本人及びご家族の希望に沿えるような場所へ外出できるよう努めている。		

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	席替え等を工夫しながら、利用者同士の関係を考慮した対応に努めている。他の利用者との折り合いがつかない場合や独りを好む方については、個別的な関わりを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後についても、併施設へ入所された利用者は、必要に応じてその都度、本人及びご家族との相談に応じている。その他、支援が必要な場合は相談に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	スタッフミーティングにて、全職員で利用者及びご家族の意向の確認、共有を行い、本人に最適と思われるケアの実施に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	サービス利用前の面接時において、本人及びご家族よりこれまでの生活歴や現在の生活環境について聞き取りを行い、詳細な把握に努めている。昔から大切にされていた物品等も持参されている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	少しの体調の変化でも見逃すことがないように、日々の観察、定時のバイタルチェックを行い、コミュニケーションも密に図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご家族、主治医、看護師、介護職員等の他職種での意見も取り入れた介護計画を立案している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人のケース記録、スタッフ間の連絡帳、業務日誌を通じ、全職員での情報の共有を図り、必要であれば介護計画を見直し、サービス提供に取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	当該事業所のみならず、併設施設の機能も十分に活用することで、利用者及びご家族のニーズに応えられるよう、柔軟な対応を心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	利用者一人ひとりを支えている地域資源を把握できているとは言えないが、町内会のご協力により、俵もみ行事等で施設に来ていただくことで交流を図るよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	利用開始前よりご家族との話し合いを行い、希望があれば継続してかかりつけ医と関係を保ち、適切な医療が受けられるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	事業所内または併設施設内の看護師と連携を図り、体調不良者については相談し、必要であれば受診が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、サマリー等を用いることで利用者の詳細な情報を医療機関へ伝えている。入院中は、事業所関係者が利用者の様子を定期的に伺い、退院後の受入れが円滑に行うことができるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	利用開始前にグループホームの機能としての限界について説明を行っている。利用後、重度化や終末期に向けた動きが必要な場合には、主治医を交えて今後の対応方法についてご家族と話し合いの場を持ち、生活継続を希望された場合は、出来る限りのサービス提供に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	施設内研修等を通じ、事故発生時や急変時の対応について知識を深めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	併設施設と合同で年2回の避難訓練等を通じ、災害対策の意識づけを行っている。地域との協力体制は薄いので、地域の防災訓練の参加や、近隣の方々に施設の避難訓練に参加していただけるよう努めている。		

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	自尊心を傷つけることがないように配慮するとともに、個人情報の保護にも留意している。禁句チェックシートについても活用している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	可能な限り自己決定していただくよう、その人その人に合わせた理解しやすい説明や声かけを行うことで、日々のコミュニケーションを密に図っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者一人ひとりのペースに合わせたケアを大切に、危険が及ばない範囲で自由に生活していただけるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	毎日の更衣について、意思疎通が可能な方には全てを一任している。その他、本人やご家族の希望があれば可能な限り、希望に沿った身だしなみやおしゃれができるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	調理で食事基準集を作成し、嗜好調査を行っている。食事の準備や片付けは、無理のない範囲で利用者とともに厨房へ取りに行ったり、盛り付け、配膳、片付けを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	毎日の食事・水分摂取量を記録し，利用者個々の状態の把握に努めている。また，施設の管理栄養士と連携をとり，栄養バランスのとれた食事を提供し，急な食事形態の変更にも柔軟に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	利用者個々の状態にもよるが，可能な限り，毎食後の口腔ケアを実施している。困難な場合は，協力歯科医院に対応をお願いし口腔内の清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェックシート等の活用等により，利用者個々の排泄パターンの把握に努めている。トイレでの排泄に向けた取り組みは，必要なケアを行うことで自立支援に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日の体操やレクリエーションを通じ，できるだけ体を動かすよう支援し，便秘解消の働きかけを行っている。便秘の原因や影響については主治医とも相談し取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	日中・夜間において，利用者からの希望や状態に合わせた入浴を実施している。当該事業所での入浴が困難な場合は，併設事業所の入浴設備を使用し，快適に入浴していただけるよう支援している。		

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	事業所内の空間スペースを有効に活用し、利用者同士、またはご家族で過ごすことができるような空間作りを実施し、好きな場所で安心して休息できるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	全職員が利用者の服用している薬について理解を深めている。誤薬、服薬忘れ等がないよう、服薬後は薬包の確認も併せて行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	利用者のこれまでの生活歴に即した趣味活動や特技を提供している。また、制作活動や簡単な作業、散歩等を行うことで気分転換の支援も行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	必ずしも全ての希望を実現することは難しいが、外出に関しては可能な限りの支援を行っている。誕生日には利用者、ご家族の希望を把握し、植物園や資料館、外食をすることで外出支援を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理が可能な利用者は非常に少ないため、施設がお金を立て替えて用意し、外出先での買い物等を通じて、社会的な交流が行える場を提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	可能な方には自由なやり取りができるよう支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者の作った作品を壁に飾るとともに、空間スペースの有効活用により、家庭的な雰囲気作りに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	面積の問題もあり、共用スペースで独りになれる空間の配置はできているとは言えない。気のあった利用者同士で過ごすことができるスペースについては、ユニット畳を使用した畳スペースやソファを配置している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用開始前から、馴染みのある使い慣れた物品を自由に持ち込んでいただき、利用者及びご家族が居心地よく過ごせるよう支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	利用者個々の理解力を把握し、その能力を最大限活かしていただけるよう努めている。		

V アウトカム項目 (Bユニットわかば)			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式3)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム鈴が峰

作成日 平成 28 年 3 月 18 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	思いや意向の把握	認知症を理解したうえでのケアの実践	対応方法について、助言を行ったり、理解してもらうよう説明するとともに、定期的に勉強会を開催し、認知症の理解を深める。	1年
2	52	居心地の良い共有空間づくり	入居者が我が家と思える場の提供	各居室は、入居者の希望に添えるよう努め、共有スペースは季節感を出しつつ、落ち着いた空間にする。 また、安全性を考慮し、危険な箇所は見直しを行う。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。